



【学校教育目標】心豊かに 学び合い たくましく 未来を拓く生徒

# 自主の火高く

『生徒会憲章』の実現を図りながら、  
生徒一人一人の自己肯定感を高め、3年計画で自立を促し、未来への志を育む

## 体育祭

2学期始まって早々、また残暑が厳しく熱中症（実際、雨が味方してくれたかも！？）が心配される中でしたが、本年度の体育祭が9月9日（土）に実施することができました。昼休みに大縄の練習をしているクラスがありました。当日を迎えるまでにいろいろな準備や葛藤（かっとう）、ドラマがあったことでしょう。大縄の回し手はだれがやるのか？…800m走をだれが担当してくれるのか？…得意不得意のある中、どのように分担すれば限られたメンバーの中でベストな状態をつくれるのか。練習時間も限られています。どのような練習をしたらより効果のある練習となるか。仲間同士の会話からどんどんより良いアイデアが生まれてきたことと思います。また、どう工夫すれば楽しくなるか、喜びを感じることができるか。これらを学習しているのだと思います。他者（他の物、例えばお年玉やプレゼント、ゲーム等）から受ける「うれしい、楽しい」には限界があります。お金がかからなくても自分（たち）で「楽しい、うれしい」をつくり出せる策を持ると、これからの人生はより充実すると思います。さて、11月6日（月）には合唱コンクールがあります。体育祭よりも取組はむずかしいかもしれません。今年も新たな中央中の合唱コンクールを創り上げるという気持ちで臨んでください。



【保護者の皆様へ】 保護者様の参観者数 約660名

体育祭には多くの保護者の皆様に、雨天にもかかわらず来校いただきました。御礼申し上げます。ここ数年、人数制限がありました。本年度はその制限を解除させていただきました。今後は土曜参観や合唱コンクールなどが続きますが日頃のお子様たちの学校での様子や学習の成果をご覧いただくと幸いです。また、PTA活動でボランティアとしてご協力いただきました保護者様には感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新人兼県民総合スポーツ大会 所沢市予選会

女子バスケットボール 第3位

- |              |     |           |
|--------------|-----|-----------|
| 陸上競技 共通男子走高跳 | 第1位 | 1m55【県大】  |
| 共通男子四種競技     | 第2位 | 947点      |
| 共通男子円盤投      | 第3位 | 22m01【県大】 |
| 共通男子110mH    | 第3位 | 20"84     |
| 共通女子円盤投      | 第3位 | 8m01      |



9月21日(木)から新人戦が行われました。1、2年生にとっては初めての公式戦となりました。時間の許す限り各会場に出向き選手たちの活躍を参観しました。試合の合間にあいさつに来てくれる生徒たち、役員として審判や線審等の裏方の仕事を担当してくれる生徒たち等、勝敗のみならずマナーでも大活躍してくれました。さて試合内容はどうでしたか？練習試合とは、また何か違うものを感じた生徒もいたのではないのでしょうか。勝負なので相手側も一生懸命プレーしてきます。これで自分たちの市内での「位置」が見えました。節目ごとに話をしているつもりですが、1、2年生は練習のつもりで結構です。成果を出すのは3年生です。今の「位置」を受け入れ、来年度の学校総合体育大会を目指して練習してください。今後は時間の限られた冬場の練習をどう乗り切るかが大事だと思います。勝てた部は「気を抜かず」、惜しくも敗れてしまった部は「あきらめず」…です。皆さんの試合を見ていると自分の小中学生の頃を思い出します。相当前のことなので断片的ですが…



小学校6年生の4月に転校した私は、友だちになってくれたばかりの同級生に「一緒に柔道やってみない？」と誘われた。私が育った地域は、田んぼ(水田)一面に覆われ、夏場は蛍がたくさん飛び交っていた。小学校までは4kmの道のりを徒歩で通っていた。その地域に新しく柔道場ができて、1、2カ月が過ぎたころだと思う。5年生までは「サッカーをやりたいな。」と思っていたので「柔道はどうか、怖いな」という気持ちでいたが、「せっかく誘ってもらったし、断るのもどうか」と思い、父母に相談して入門することになった。できたての道場だったので、師範(先生)以外はみんな白帯だった。柔道着の着方もぎこちなく、強さを感じなかった。私も6歳上の兄が中学校の授業の時に使用していた柔道着をもらっての入門だったので、その柔道着はぶかぶかで他の仲間と同様に思われていたと思う。私は6年生の中でも身長が高い方だったこともあり、「受身」を身につけ、簡単な技を覚えはじめ、相手を投げることができるようになり楽しさが出てきた。

入門して最初の夏休みに「少年柔道大会」に団体戦で参加することになった。場所は日本武道館である。この日本武道館は昭和39年の東京オリンピックの柔道会場である。(2021東京オリンピックの会場でもあった。)そのような場所できなり試合と聞いてビックリした。市や県を勝ち上がって全国大会に参加するならともかく、「少年柔道大会」は申し込みば、どのような道場でも参加できる大会であったようである。対外試合も昇級審査も経験なく、そのような状況の中、当日を迎えた。私たち一行は、保護者同伴のもと、観光バスを貸切って会場へ向かった。都心に入るとバスガイドさんが池袋駅を通過したところで、当時一番高いサンシャイン60を観光案内してくれた。当時では最も高い200mのビルである。そうこうしているうちに、日本武道館に到着した。会場に入ると、すでにフロア一全面に畳が敷かれていて10以上の試合会場ができていた。普段見慣れない雰囲気になり飲み込まれていた感じだった。これ以降自分の試合が開始されるまでは覚えていない。(途中省略)いよいよ自分の試合の番がきた。私は身長と体重の関係で大将という一番最後に試合する選手として出場した。すでに0対4で団体戦としては敗戦の状況であった。チームとしては負けであるが、個人としては良い試合になればという思いで畳にあがった。相手は自分より小柄な体格だった。主審の「はじめ」の合図で2分間(3分間?)の試合が開始された。相手と組み合った直後の自分の体がどうなったか覚えていない。記憶にあるのは天井の照明だけが目に入り、まぶしかったことである。どうやら相手と組んだ瞬間に「背負投げ」という技で投げられて、完全に仰向けになっていたようである。試合開始から時間にして5秒程度の出来事であった。お弁当を食べ何試合か見学してからバスに乗り込み、サンシャイン60を左手に見上げながら川越街道を北上して地元に戻った。

その後は特に辞めることもなく、なぜか柔道は続けた。中学生になり柔道部に入部し、道場と部活動の練習の日々が続いた。しかも道場では中学生は大人と混じっての練習であった。師範(先生)には、警察署勤務の「特練」あがりの警察官、時々、屈強な現役の機動隊員が練習に来ていた。毎日ほぼ「投げられ役」として道場に通っていた感じだった。そのお陰かもしれないが、多少試合に勝てるようになり自信がついてきた。そこから思ったことは「スタートは負けから…」ということだった。そして、先輩や師範(先生)から投げられ続け、負けを経験する中で「我慢」を覚え、勝たせてもらえるようになってからは「相手を敬う」気持ちが多少なりとも芽生えてきたような気がする。